

10th JSMD プログラム

会長講演

記念講演

招待講演

教育講演1～3

シンポジウム1～10

ワークショップ1～4

認知行動療法セミナー

自殺予防研修会

交流の広場

自殺対策委員会企画シンポジウム

双極性障害委員会企画シンポジウム

コメディカル委員会企画シンポジウム

第7回うつ病診療講習会

第8回 学会奨励賞受賞講演

ガイドライン説明会





会長講演

7月19日(金) 13:50～14:40

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

多様化したうつ病の病態と職場復帰

司会	神庭 重信	九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
演者	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室

記念講演

7月20日(土) 11:10～12:00

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

司会	野村 総一郎	防衛医科大学校病院
----	--------	-----------

日本うつ病学会の10年の歩み

演者	樋口 輝彦	国立精神・神経医療研究センター
----	-------	-----------------

今後のうつ病対策：研究と社会的対応について

演者	神庭 重信	九州大学大学院医学研究院精神病態医学
----	-------	--------------------

招待講演

7月19日(金) 9:40～10:30

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

Medication strategy on bipolar disorder considering physical comorbidities

司会	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室
演者	Rogers McIntyre	Psychiatry and Pharmacology at the University of Toronto and Mood Disorders Psychopharmacology Unit at the University Health Network, Toronto, Canada

教育講演1

7月19日(金) 14:50～15:40

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

伝統精神医学の基本コンセプトと米国 DSM

司会	染矢 俊幸	新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
演者	豊嶋 良一	埼玉医科大学精神医学

教育講演2

7月19日(金) 14:50～15:40

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

うつ病の早期発見・治療のための地域連携 —久留米地区におけるネットワークの構築—

司会	佐野 輝	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻社会・行動医学講座精神機能病学分野
演者	内村 直尚	久留米大学医学部神経精神医学講座

教育講演3

7月19日(金) 14:50～15:40

D会場 (AIMビル 3F D+E 展示場)

抗うつ薬の薬物動態学

司 会

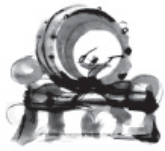
近藤 毅

久留米大学医学部神経精神医学講座

演 者

鈴木 映二

国際医療福祉大学熱海病院



シンポジウム1 身体疾患領域で求められる精神科医療：ナショナルプロジェクトから

7月19日(金) 10:30～12:30

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

オーガナイザー 伊藤 弘人 国立精神・神経医療研究センター

【趣旨・狙い】

身体疾患患者とうつ(うつ病とうつ状態)との併発割合は高く、併発による予後悪化が明らかになっている。2013年度からの医療計画に、受療患者数の増加が著しいうつ病等が、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病に続く5疾病目として加わるとともに、新たな健康日本21においてもうつの重要性が指摘されている。このような背景から、国立精神・神経医療研究センターを含むすべての国立高度専門医療研究センターでは、共同して身体疾患患者へのメンタルケアモデル開発に関する全国プロジェクトを2012年度に開始した。本シンポジウムでは、概要とともに、精神科医等の役割に焦点をあてた紹介を複数のナショナルセンターからいただくとともに、フロアと意見交換を行う。

司 会 樋口 輝彦 国立精神・神経医療研究センター

中村 純 産業医科大学医学部精神医学教室

S1-1 身体疾患患者へのメンタルケアモデル開発に関するナショナルプロジェクト概要

伊藤 弘人 国立精神・神経医療研究センター

S1-2 糖尿病領域での取り組み

野田 光彦 国立国際医療研究センター糖尿病研究連携部

S1-3 高齢者うつ病への対応－認知症、身体合併症との関連から

服部 英幸 国立長寿医療研究センター行動心理療法部

S1-4 がん領域における取り組み

小川 朝生 独立行政法人国立がん研究センター東病院臨床開発センター精神腫瘍学開発部

シンポジウム2 児童青年期の気分障害

7月19日(金) 10:30～12:30

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

オーガナイザー 西村 良二 福岡大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

近年、児童青年期のうつ病は一般的に存在することが明らかにされ、ADHDや広汎性発達障害のコモビディティ、再発・再燃の問題、双極性障害への移行、人格発達への影響、成人期への移行、薬物療法応答性や自殺関連事象などが話題となっている。また、児童期の双極性障害に関しては成人のそれとは異なった症状を呈することがあり、鑑別診断やコモビディティ、治療について注目を集めている。このシンポジウムでは、児童青年期の気分障害の臨床的特徴、コモビディティ、生物学的基盤、薬物療法、成人への移行、発達途上にある彼らの治療の進め方などについて討議する。

司 会 西村 良二 福岡大学医学部精神医学教室

傳田 健三 北海道大学大学院保健科学研究院生活機能学分野

S2-1 児童青年期の気分障害とコモビディティ

傳田 健三 北海道大学大学院保健科学研究院生活機能学分野

S2-2 青年期の気分障害を双極性障害から考える

棟居 俊夫 金沢大学子どものこころの発達研究センター

S2-3 児童青年期の気分障害：症候学と神経生物学からみた位置づけ

岡田 俊 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

S2-4 **児童青年期のうつ病の薬物療法**
齊藤 卓弥 日本医科大学精神医学教室

シンポジウム3 がん緩和ケアにおけるうつ病対策

7月19日(金) 10:30~12:30

D会場 (AIMビル 3F D+E展示場)

オーガナイザー 内富 庸介 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学

【趣旨・狙い】

がん対策基本法が2007年に施行され7年目を迎えるが、診断時からの精神心理的ケアが少しずつではあるが実践されはじめた。精神科医や心療内科医のがん医療への参入が進み、他の職種と連携したチーム医療を実践することにより、がん患者及びその家族のQOLの向上が達成されつつある。がん患者へのうつ病対策を導入する際の基本的要素と先駆的プログラムのいくつかを紹介し、我が国の実情にあった対策を一緒に考えたい。

司 会 内富 庸介 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学
明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野

S3-1 **疫学と薬物療法**
内富 庸介 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学

S3-2 **がん患者に対する精神療法**
明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野

S3-3 **緩和ケアチームとしてのメンタルケアと多職種連携**
稲田 修士 東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部/東京大学医学部附属病院心療内科

S3-4 **うつ状態の早期発見、早期治療への取り組み**
清水 研 国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科

シンポジウム4 いわゆる「新型うつ病」に対する学会見解を目指して

7月20日(土) 9:00~11:00

A会場 (北九州国際会議場 1F メインホール)

オーガナイザー 神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

【趣旨・狙い】

本学会のテーマとした多様化し増加したうつ病の中にいわゆる「新型うつ病」は含まれており、勤労者や若者のうつ状態の多くを占め、現代のうつ病臨床に混乱をもたらしている。これはこの5年の間に起こった現象である。そこで、日本うつ病学会では、このような若い人に多いとされるうつ病に対する用語、ならびに概念を整理するため「いわゆる新型うつ病に対する学会見解作成のための委員会」を立ち上げることになった。本企画は、その準備となるシンポジウムである。いわゆる「新型うつ病」は、「現代型うつ病」などとも呼ばれ、従来のメランコリー親和型うつ病や内因性うつ病とは違った病像や予後を示すものとして対極的に考察されたり、あるいは現代の若者の意識の変化がうつ病そのものの病像を変化させているのではないかなどとさまざまな考察がなされている。本シンポジウムではうつ病に対するマスコミ報道の在り方などについても議論を深め、現代のうつ病に対する理解を深めたいと考えている。

司 会 神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
中村 純 産業医科大学医学部精神医学教室

S4-1 **新型うつ病をめぐる議論は、伝統的なうつ病概念の曖昧さを露呈させる**
黒木 俊秀 九州大学大学院人間環境学研究院実践臨床心理学専攻



- S4-2 若い世代の心性に即した診断と治療を考える
齋藤 環 筑波大学社会精神保健学領域
- S4-3 いわゆる「新型うつ病」の治療について
徳永 雄一郎 不知火病院
- S4-4 「新型うつ」：今、職場で生じている混乱とその対応の方向性
渡辺 洋一郎 渡辺クリニック
- 指定発言 これまでのうつ病報道について
寺西 浩太郎 日本放送協会

シンポジウム5 うつ病学会(認知療法)：閾値下うつ病および軽症うつ病への認知療法・認知行動療法の活用の可能性

7月20日(土) 9:00～11:00

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

オーガナイザー 大野 裕 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター／認知行動療法センター／高田馬場研修センター

【趣旨・狙い】

日本うつ病学会の治療指針では、軽症うつ病の治療に関しては、薬物療法よりもむしろ認知療法・認知行動療法が優先されるべきであるとされている。そこで本シンポジウムでは、軽症うつ病に対する認知療法・認知行動療法を医療場面でどのように活用できるかについて、外来に関して菊地先生、入院に関しては田中先生にご発表いただく。さらに、地域と職域での活用法について、それぞれ田島先生、森先生に体験を交えてご発表いただき、その後、フロアからのご意見をうかがいながら今後の活用の可能性について議論したい。

司 会

大野 裕 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター／認知行動療法センター／高田馬場研修センター
菊地 俊暁 杏林大学

- S5-1 軽症うつ病の治療における認知療法・認知行動療法の位置づけ
～うつ病学会の治療ガイドラインの視点から
菊地 俊暁 杏林大学医学部精神神経科学教室
- S5-2 地域におけるこころの健康づくりと認知療法・認知行動療法
～被災地支援・市民講座をもとに～
田島 美幸 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
- S5-3 インターネットCBTを用いた職域メンタルヘルス教育
森 まき子 コニカミノルタ株式会社／北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学
- S5-4 軽症うつ病に対するCBT教育入院クリニカルパスの実施とその可能性
田中 伸明 桶狭間病院藤田こころケアセンター

シンポジウム6 身体疾患および薬剤によるうつ病

7月20日(土) 9:00～11:00

D会場 (AIMビル 3F D+E 展示場)

オーガナイザー 古郡 規雄 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

【趣旨・狙い】

近年、身体疾患に合併する「合併うつ病」の治療の重要性に対する認識が高まり、身体疾患を有する患者のうつ病有病率が多数報告されている。一般的に、内分泌疾患、冠動脈疾患、消化性潰瘍、膠原病、糖尿病、パーキンソン病、脳血管障害、がんなどの疾患で、うつ病の合併率が高いことが指摘されている。さらに身体疾患の治療薬がうつ病を引き起こすことも知られている。うつ病を合併すると、身体疾患の治療成績が悪くなるという報告も数多く見られる。そこで、今回のシンポジウムでは、身体疾患および薬剤によるうつ病に関する最新のトピックスを報告するとともに現状を総括し、今後われわれが取り組まなければならない問題について議論する予定である。

司 会 古郡 規雄 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座
吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

- S6-1 脳卒中とうつ病
古郡 規雄 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座
- S6-2 線維筋痛症とうつ病
長田 賢一 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室
- S6-3 Psychotic symptoms and systemic lupus erythematosus
吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室
- S6-4 薬剤性うつ病のエビデンス
猿渡 淳二 熊本大学大学院生命科学研究部薬物治療学分野

シンポジウム7 リワークプログラムの将来的な課題 ～質の担保と標準化～

7月20日(土) 14:20～16:20

A会場 (北九州国際会議場 1F メインホール)

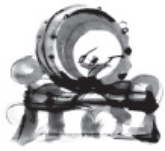
オーガナイザー 五十嵐 良雄 メディカルケア虎ノ門/うつ病リワーク研究会

【趣旨・狙い】

リワークプログラム(以下、プログラム)が始まってその年月は浅いものの、全国の140施設以上の医療機関で実施され、今後はプログラムの内容を充実させていくべき時期である。本シンポジウムでは、うつ病リワーク研究会の基本調査結果から、医療機関で行われているリワーク活動内容を総括的にレビューするとともに標準化リワークプログラムとその広がりに関してレポートする。次にプログラム上の工夫を行っている2施設より新たな取り組みを紹介し、プログラム構成への工夫を通じてのリワーク活動の今後の在り方について発表してもらう。最後に、プログラムを利用する産業医の立場から、プログラムへの期待を語っていただき、全体での討論を行う。

司 会 五十嵐 良雄 メディカルケア虎ノ門/うつ病リワーク研究会
横山 太範 さっぽろ駅前クリニック/うつ病リワーク研究会

- S7-1 うつ病リワーク研究会の調査からみたプログラムの発展と現状
林 俊秀 うつ病リワーク研究会
- S7-2 メディカルケア虎ノ門の工夫～WSP～
飯島 優子 医療法人社団雄仁会メディカルケア虎ノ門



- S7-3 **再休職予防のために効果的なリワークプログラムとは
～パソコングループワークの構造とスタッフの働きかけに着目して～**
前田 英樹 さっぽろ駅前クリニック北海道リワークプラザ
- S7-4 **産業医からみたリワークプログラムへの期待**
梶木 繁之 産業医科大学産業生態科学研究所産業保健経営学研究室

シンポジウム8 うつか？認知症か？－高齢者診療での対応を考える－

7月20日(土) 14:20～16:20

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

オーガナイザー 新井 平伊 順天堂大学医学部精神医学講座

【趣旨・狙い】

超高齢社会の到来とともに、うつ病と認知症の患者数が増加し、わが国の5大疾病の一つに精神障害が入った。それぞれの疾患においても多くの要因に配慮して注意深い臨床的対応が要求されることはいうまでもないが、両者が重畳する症例や、うつ病から認知症へ移行する症例まで、高齢者の実臨床では診断や治療に困難をきたすことが少なくない。そこで、本シンポジウムでは、「仮性認知症」「認知症の前駆・初期症状としてのうつ病」「うつ病から認知症への移行」の3点を中心に、演者にそれぞれ疫学、診断、機序、治療の切り口で概説頂いた上で、総合討論ではフロアも含め全員で、関連するさまざまな問題、困難、悩み、工夫などについて意見交換し、明日からの実臨床につなげることを目指す。

司 会

新井 平伊 順天堂大学医学部精神医学講座
小田原 俊成 横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター

- S8-1 **血管性うつ病と認知機能障害**
山下 英尚 広島大学病院
- S8-2 **鑑別診断、うつ状態を呈しやすい認知症
－特にレビー小体型認知症について－**
小田原 俊成 横浜市立大学附属市民総合医療センター
- S8-3 **うつ病から認知症への移行
－その機序に対する多角的考察－**
馬場 元 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学／順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
- S8-4 **うつ状態を呈する老年期患者の対応に関して－薬物療法を中心に－**
古郡 規雄 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

シンポジウム9 気分障害と白質病変

7月20日(土) 14:30～16:30

C会場(北九州国際会議場 1F 11 会議室)

オーガナイザー 工藤 喬 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

【趣旨・狙い】

拡散テンソル画像(DTI)を用いた検討では、気分障害では白質のFA値の低下が観察され、大うつ病の側頭葉ではCOMT Val158Met 遺伝子多型との関連が認められた。また、脳梗塞後うつ病の患者では、そのFA値低下に炎症反応が関与していることが示された。気分障害の死後脳研究からは、前頭極に脂肪酸代謝の特異的異常が存在し、その異常がミエリン依存的に増大することが判明した。さらにマウスを用いた実験で、気分安定薬に神経幹細胞の自己複製能を亢進させる薬理作用を見出したことから、双極性障害にも神経幹細胞-細胞新生システム、特にミエリンを形成するオリゴデンドロサイト系譜細胞の新生・増殖・再髄鞘化の障害が存在する可能性についても討論する。

司 会 工藤 喬 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室
 楯林 義孝 公益財団法人東京都医学総合研究所統合失調症・うつ病プロジェクトうつ病研究室

- S9-1 **気分障害と脳梗塞後うつ病の拡散テンソル画像(DTI)**
 安野 史彦 奈良県立医科大学精神医学講座/循環器病研究センター画像診断医学部
- S9-2 **COMT gene Val158Met is associated with white matter abnormalities at the temporal lobe in patients with major depressive disorder**
 吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室
- S9-3 **気分障害の脂肪酸代謝異常とミエリン**
 楯林 義孝 東京都医学総合研究所
- S9-4 **気分安定薬の作用機序から考察した双極性障害の病態機序**
 等 誠司 滋賀医科大学生理学講座統合臓器生理学部門

シンポジウム10 学校のメンタルヘルス

7月20日(土) 14:20～16:20

D会場(AIMビル 3F D+E 展示場)

オーガナイザー 宮田 正和 福岡教育大学健康科学センター

【趣旨・狙い】

学校現場には多くの問題がある。学校にかかわる児童・生徒・学生、教職員さらに保護者が種々のストレスからメンタルヘルス不調となり、心身症やうつ病をはじめとする精神疾患に罹患し、受診するケースがふえている。本シンポジウムでは、発達障害、大学生のストレス、教師のストレス、教職員のメンタルヘルス対策についてのシンポジストによる講演と総合討論から学校でのメンタルヘルスについて現状と対応や対策について明らかにする。

司 会 宮田 正和 福岡教育大学健康科学センター

- S10-1 **学校のメンタルヘルス支援における不安抑うつ症状の評価
 -発達障害との関連の検討-**
 山下 洋 九州大学病院子どものこころの診療部
- S10-2 **大学生におけるメンタルヘルス
 -こころアレルギー-**
 佐藤 武 佐賀大学保健管理センター



- S10-3 教師のストレス(症例から)
野見山 晃 若久病院
- S10-4 「教職員メンタルヘルス予防システム」の実際と課題
土井 一博 川口市教育委員会

ワークショップ1 東日本大震災から2年4か月が経って：長期的なメンタルヘルスへの影響

7月19日(金) 15:50～17:20

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

コーディネーター 前田 正治 久留米大学医学部神経精神医学講座
重村 淳 防衛医科大学校精神科学講座

【趣旨・狙い】

東日本大震災、福島第一原発事故から2年が過ぎ、被災地域の長期的なメンタルヘルス対策の真価が問われている。被災地域の医療保健福祉関係者数はもともと希少で、急性期には全国各地から「こころのケア」チームが派遣されたものの、長期派遣を続けている者はごく僅かである。そのような中、専門家たちは、様々な対象者に向けて、ミクロ～マクロ的視点のトラウマ・うつ病・自殺対策を実践している。既存のシステムを強化したり、新規のシステムを立ち上げたりして、様々なアプローチを展開している。このワークショップでは、その活動を紹介するとともに、包括的な長期支援のあり方に向けてディスカッションを進めていきたい。

司 会 前田 正治 久留米大学医学部神経精神医学講座
重村 淳 防衛医科大学校精神科学講座

- WS1-1 **東日本大震災後の自殺対策**
黒澤 美枝 岩手県精神保健福祉センター
- WS1-2 **宮城県沿岸部の災害支援者に対する支援活動、健康調査から**
佐久間 篤 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野
- WS1-3 **福島におけるスティグマとセルフ・スティグマを考える**
前田 正治 久留米大学医学部神経精神医学講座
- WS1-4 **福島第一・第二原発職員へのケアを通じて考える災害支援者のメンタルヘルス対策**
重村 淳 防衛医科大学校精神科学講座

ワークショップ2 食・栄養と気分障害

7月19日(金) 15:50～17:20

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

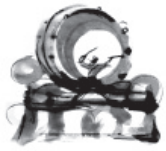
コーディネーター 小澤 寛樹 長崎大学大学院医歯薬学総研究科精神神経科学講座
寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

【趣旨・狙い】

栄養の偏りが私たちの「精神活動」(メンタルヘルス)に影響を与えてしまう。実はこれまでの精神医学の発展において、関心を払われることが少なかったのが、「栄養と精神」との関係であった。近年、 ω (オメガ)3系と総称される多価不飽和脂肪酸であるEPA、DHAがうつ病をはじめ様々な精神疾患に有用であるという報告がなされている。平成20年度の『水産白書』で子供の魚離れは健全な発育に影響があるとの指摘がなされている。最近の調査では魚嫌いで子供が抑うつ傾向を示した。また飲料の微量元素が精神衛生に重要な意味を持つことが分かってきている。上記のことを背景に本ワークショップでは栄養と気分障害の関係について、疫学、栄養学、臨床、生物学的側面から議論を深める。

司 会 小澤 寛樹 長崎大学大学院医歯薬学総研究科精神神経科学講座
寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

- WS2-1 **栄養とうつ - 疫学の立場から -**
南里 明子 国立国際医療研究センター臨床研究センター疫学予防研究部栄養疫学研究室



- WS2-2 **食とうつー栄養士の立場からー**
阿部 裕二 国立精神・神経医療研究センター病院栄養管理室
- WS2-3 **子どものうつと食事**
花田 裕子 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- WS2-4 **水道水リチウムと自殺予防**
石井 啓義 大分大学医学部精神神経医学講座

ワークショップ3 気分障害診断における光トポグラフィー検査の実際：その意義と課題

7月19日(金) 15:50～17:20

D会場 (AIMビル 3F D+E 展示場)

- コーディネーター** 福田 正人 群馬大学大学院医学研究科神経精神医学教室
白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

「光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」が平成21年に先進医療に認定されて以来、平成25年3月末時点で、全国21施設が同先進医療を実施している。これまで、同先進医療についての報告は数多くなされてきたが、その成果をどのように現場で生かすべきかについての検討が十分になされてきたとは言えない。そこで、本ワークショップでは、気分障害診断における同先進医療の役割を明らかにし治療にどう生かすべきかを中心に、その意義、問題点、今後の展開等について議論を深めることを目的とした。

- 司 会** 福田 正人 群馬大学大学院医学研究科神経精神医学教室
白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室

- WS3-1 **光トポグラフィー検査の現状：気分障害診断を中心に**
里村 嘉弘 東京大学大学院医学系研究科・精神医学
- WS3-2 **光トポグラフィー検査による気分障害診断の実際**
松尾 幸治 山口大学医学部附属病院精神科神経科
- WS3-3 **光トポグラフィー検査入院の意義と今後**
野田 隆政 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院精神科／
独立行政法人国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター／
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科心療・緩和医療学分野／
早稲田大学重点領域機構応用脳科学研究所
- WS3-4 **先進医療：光トポグラフィー検査における判定困難例をめぐって**
辻井 農亜 近畿大学医学部精神神経科学教室

ワークショップ4 今のうつ病診療は職場のニーズに responding しているか

7月19日(金) 15:50～17:20

E会場 (AIMビル 3F 311+312+313)

コーディネーター 新開 隆弘 産業医科大学精神医学教室

【趣旨・狙い】

2002年に厚生労働省が行った調査では、うつ病の有病率は6.5%であり、15人に1人が生涯に1度はうつ病にかかることとされる。うつ病診療における客観指標が未確立なことから、職場での(特に典型的とはいえない)うつ病の理解や対応に混乱が生じている現状がある。われわれ精神科医は職場に対して十分な説明責任を果たしているのか?患者のニーズと職場のニーズにどうバランスをとっていけばよいのか?この分野に造詣の深い第一線の臨床家、産業医を招き議論する。

指定図書①:『「新型うつ病」のデタラメ』(中嶋 聡著:新潮新書)

指定図書②:『事例に学ぶ職場のメンタルヘルス—産業医・精神科医のレポート』

(中村 純・新開 隆弘監修:中災防新書)

指定映像:厚労省メンタルヘルスポータルサイト「こころの耳」『動画で学ぶメンタルヘルス教室～職場復帰、成功に向けて～』(高野 知樹) <http://kokoro.mhlw.go.jp/video/>

司 会 新開 隆弘 産業医科大学精神医学教室

WS4-1 患者、産業医、人事から信頼を得るために

高野 知樹 神田東クリニック/MPSセンター

WS4-2 今のうつ病診療は職場のニーズに responding しているか
～産業医(職場)の立場から～

塚本 浩二 東京ガス株式会社人事部安全健康・福利室

WS4-3 「新型うつ病」の社会的問題

中嶋 聡 なかまクリニック

産業医の方へ

ワークショップ4は、日本医師会認定産業医制度生涯研修会として承認されました。日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯・専門1.5単位を取得できます。



認知行動療法セミナー 認知行動療法のABC ～型からおぼえるCBT～

7月19日(金) 9:40～14:00

C会場(北九州国際会議場 1F 11 会議室)

オーガナイザー 堀越 勝 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

【趣旨・狙い】

対人援助が上手くいくかどうかは、より良い「関係」作りに深く関わっている。言葉の選び方や伝え方、話の焦点の当て方、態度などのコミュニケーションのあり方に左右され、それによって医療の質が決定すると言っても過言ではない。認知行動療法を行う際にも同様のことが言える。ある分野で卓越した人々の誰もがまず行うことは、その分野の「型」を覚え学ぶことである。テニスならラケットの素振りを十分に行ってからコートに立つし、空手であれば基本的な型を覚えることからスタートする。医療におけるコミュニケーションスキルも同様に、基本的な型を覚え、臨床実践の場で応用し、さらには自分の性格やスタイルに合うように調整する作業が必要である。

本セミナーでは、さまざまな演習を織り交ぜながら認知行動療法の「型」を学んでいく。患者が何に困っているのかを質問し(Ask)、患者とのラポールを形成し(Be with the patient)、臨床的な質問を行うことで患者の気づきを促していく(Clinical questions)。認知行動療法を行うにあたっては、このABCの型を学ぶことが極めて重要である。また、患者自身が真実を発見する(Guided Discovery)ような質問をソクラテス式問答と呼び、認知行動療法ではこの質問法を多用するが、本ワークショップではソクラテス式問答のコツについても丁寧に解説する。

日々の臨床に認知行動療法のエッセンスを取り入れたいと考えている方にも、個人や集団で認知行動療法を行いたい方にも、「認知行動療法のABC」を学ぶ体験型の本セミナーに是非ご参加いただきたい。

講 師

堀越 勝 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
 宇都宮 健輔 株式会社東芝本社保健センター
 田島 美幸 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
 細越 寛樹 畿央大学教育学部現代教育学科

研修協力者

小林 由季 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
 新明 一星 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

定 員：50名(事前登録制)

受 講 料：10,000円(テキスト・ワークシート・DVD付テキストブック・弁当代を含む)

参加資格：1. 日本うつ病学会の会員(医師、看護師、保健師、心理士、精神保健福祉士等)

(対 象) ※第10回日本うつ病学会総会にも ご参加ください。

2. 第10回日本うつ病学会総会に参加する臨時会員

(医師、看護師、保健師、心理士、精神保健福祉士等)

形 式：セミナー形式(研修+演習)

主 催：第10回日本うつ病学会総会

共 催：独立行政法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会(JCPTD)

<プログラム> (予定)

	時間	内容
イントロダクション	9:40- 9:45 (5分)	趣旨とアジェンダ説明
1時限目 講義	9:45-10:35 (50分)	CBTの概要、情報収集・査定 (A; Ask)
2時限目 講義・演習	10:35-11:20 (45分)	ラポール構築 (B; Be with the patients)
休憩①	11:20-11:30 (10分)	
3時限目 講義・演習	11:30-12:20 (50分)	こころの仕組み図、心理教育
休憩②	12:20-12:50 (30分)	(昼食)
4時限目 講義・演習	12:50-13:45 (55分)	ソクラテス的問答 (C; Clinical questions)
まとめ	13:45-14:00 (15分)	まとめ・質疑応答

自殺予防研修会 複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャル

7月19日(金) 14:50~17:20

C会場(北九州国際会議場 1F11会議室)

オーガナイザー 河西 千秋 横浜市立大学医学群健康増進学/日本うつ病学会自殺対策委員会委員長

【趣旨・狙い】

自殺の予防、そして自殺の後に遺された人へのケアを含む事後対応は、精神科、心理臨床、ないしは対人支援業務の中で重要な領域です。自殺と精神疾患の関連は密接であり、自殺予防対策に関する法規、大綱等において、医療・保健・福祉専門職、および職能団体の自殺予防対策への関与が強く求められています。しかし、専門職は、これまで専門教育の中で自殺予防学を学ぶ機会はほとんどなく、専門職の多くが、自殺関連事象への対応について知識・技量の不足を自覚し、困難感を感じていることが知られています。

本研修会では、自殺に傾く複雑事例について、自殺予防対策の専門家のガイドにより多職種の多様な観点からその問題点を読み解くとともに、さらに専門家によるレクチャーと双方向性の学習により、複雑事例や深刻事例に対応する際の基本事項を習得することを目的としています。

司会・講師・ファシリテーター	河西 千秋	横浜市立大学医学群健康増進学/日本うつ病学会自殺対策委員会委員長
	大塚 耕太郎	岩手医科大学災害地域精神医学講座
講師・ファシリテーター	張 賢徳	帝京大学溝口病院精神神経科
	小嶋 秀幹	福岡県立大学人間社会学部
	太刀川 弘和	筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
	加藤 大慈	横浜市立大学附属病院精神科

定 員：40名(事前登録制)

※定員を上回る場合、受講できない場合もございますので予めご了承ください。

受 講 料：5,000円(下記を含む)

1. 日本精神神経学会のテキスト
2. 自殺予防のエッセンシャル(仮題)のポケット版パウチ文書
3. 研修受講証書
4. その他自殺予防のための臨床に資する情報提供資料等

参加資格：1. 日本うつ病学会の会員(医師、看護師、保健師、心理士、精神保健福祉士等)
(対 象) ※第10回日本うつ病学会総会にもご参加ください。

2. 第10回日本うつ病学会総会に参加する臨時会員
(医師、看護師、保健師、心理士、精神保健福祉士等)



形 式：研修会形式(事例検討を中心としたワークショップ)
グループワークは各班6人程度に分かれて行います。

主 催：第10回日本うつ病学会総会および日本うつ病学会自殺対策委員会
共 催：日本精神神経学会・精神保健に関する委員会、日本自殺予防学会

交流の広場 ～当事者・家族・支援者の集い～

7月20日(土) 11:00～12:00

E会場(AIMビル 3F 311+312+313)

オーガナイザー・司会 三井 敏子 北九州市立精神保健福祉センター所長

【趣旨・狙い】

うつ病は、慢性疾患であり、療養プロセスの中で様々な生活上の配慮が必要な病です。そのような疾患に共通のことですが、うつ病もまたうつ病の当事者のみならず家族など周囲の人々にも大きな影響を及ぼします。家族もまた病に戸惑い、病によって生じる問題への対応に苦慮しています。家族の疾病への理解は、うつ病治療にとって大きな支援でもありますが、そのみに目を奪われて、家族自身の健康を損ねることになってはなりません。家族が本人に最良の支援を提供するためには、家族自身が配慮され、十分に支えられることも必要でしょう。

うつ病当事者の方も、その家族も、病についての知識や対応についてのノウハウを容易に手に入れられる機会を必要としています。また、いわゆる専門知識だけでなく、当事者及び家族が療養生活の中で苦労しながら手に入れた体験的な知恵を、お互いに分かち合うこともきわめて有用と思われれます。

さらに、様々な状況の中の当事者とその家族を支える医療関係者には、当事者・家族の体験を多く聴き、知り得た経験が、今後の支援を形作り、治療的な配慮を生む原材料となると思われます。

今回の交流会は、当事者・家族・医療関係者の経験と知恵をともに分かち合う場を目指します。それぞれの立場は異なりますが、医療関係者にとっては、今後の医療の質の向上のために、当事者・家族にとっては、現在の医療状況を知り支援を求める手立ての強化や対応力の向上のために、このような交流は役に立つのではないのでしょうか。

開始から30分程度、昨年うつ病学会でもメッセージを下さった「うつの家族会 みなと」の砂田くにえさんにご講演いただいた後、フロアに参加して下さっている医療関係者、当事者、家族の方々のご発言をいただくリレートークを想定しています。参加されたどなたもが相互に学びあい、支えあう出会いとなればよいと思います。

演 者 砂田くにえ うつの家族の会みなと

自殺対策委員会企画シンポジウム

自殺予防のエビデンスⅡ

7月19日(金) 10:30～12:30

E会場(AIMビル 3F 311+312+313)

オーガナイザー 河西 千秋 横浜市立大学医学群健康増進科学

【趣旨・狙い】

我が国で自殺総合対策大綱が閣議決定されてから早5年が経過し、2012年8月には規定により大綱の見直しと改定がなされた。改定された大綱は、改めて精神保健・精神医療の重要性を掲げており、また新たに、職能団体に対して積極的に自殺予防対策に参画することを求めている。自殺対策委員会は、本学会会員が自殺予防対策の実践活動を行う上での方向性を明示することを目的に、昨年度総会においてシンポジウム「自殺予防のエビデンス」を企画し、精神療法、薬物療法、そして地域精神保健対策の自殺予防に関する有効性、そしてメディアと自殺問題に関して、これまでに明らかとなっているエビデンスと課題について報告した。今年度は、シリーズⅡとして、プライマリ・ケア、自殺未遂者ケア、物質関連障害、そして自殺のホットスポットをテーマとして、それぞれの領域におけるエビデンスを報告し、課題について検討することとした。

司 会 河西 千秋 横浜市立大学医学群健康増進科学
張 賢徳 帝京大学溝口病院精神神経科

SS-1 プライマリケアにおける自殺予防
中尾 睦宏 帝京大学大学院公衆衛生学研究所・医学部附属病院心療内科

SS-2 アルコール使用障害と自殺予防
松下 幸生 国立病院機構久里浜医療センター

SS-3 自殺未遂者ケアと自殺予防
河西 千秋 横浜市立大学医学群健康増進科学

SS-4 自殺のホットスポット対策
太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

双極性障害委員会企画シンポジウム

双極性障害の治療がうまくいかない時に考えるべきこと

7月20日(土) 9:00～11:00

E会場(AIMビル 3F 311+312+313)

オーガナイザー 秋山 剛 NTT東日本関東病院精神神経科、心療内科

【趣旨・狙い】

ここ数年双極性障害に対する認知は高まって来ている。薬物療法においても、従来の気分安定薬に加え、ラモトリギンや非定型抗精神病薬が保険適応となり、また前回のシンポジウムでもとり上げたように精神療法も注目され、治療選択肢は一気に増えた。こうした状況から双極性障害の治療転帰はよくなるかに見えるが、しかしながら、いろいろな治療を試みてうまく行かず難渋している治療者は多いと思われる。

本シンポジウムではその際にどのように考えるべきかについてとり上げた。双極性障害を治療していく上でのピットフォール、そして推奨されるアプローチについてより理解が深まることを期待する。

司 会 秋山 剛 NTT東日本関東病院精神神経科、心療内科
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

BS-1 双極性障害における「治療抵抗性」概念を考える
田中 輝明 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野



- BS-2 双極性障害がなかなかよくなる時に薬物療法はどうあるべきか
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
- BS-3 心理、心理社会的側面への援助
秋山 剛 NTT東日本関東病院精神神経科、心療内科
- BS-4 これから新たにうつ病や双極性障害を治療していく上で、配慮すべきこと
寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

コメディカル委員会企画シンポジウム うつ状態にある発達障がい者へのサポート

7月20日(土) 14:20～16:20

E会場 (AIMビル 3F 311+312+313)

オーガナイザー 向笠 章子 聖マリア病院臨床心理室

【趣旨・狙い】

近年、臨床的にも社会的にも注目されている広汎性発達障害者とうつ病性障害に焦点を当て、様々な現場でメディカルスタッフが取り組んでいる実際を報告する。特にうつ症状を示す発達障害への取り組みについて、医学的見地から、また青年期での取り組みとして大学でのカウンセリングから、さらに社会での生活支援としてその介入方法を、そして社会の一員として就労支援について、それぞれのスペシャリストが日ごろ工夫している実践的な報告をする。また最後に会場との質疑応答も踏まえ、今後の課題に対してシンポジスト全員で意見交換をする予定である。

司 会 長谷川 雅美 金沢医科大学
向笠 章子 聖マリア病院臨床心理室

- CS-1 成人期の発達障害と気分障害
佐野 信也 防衛医科大学校心理学学科目/精神科
- CS-2 うつ症状を呈している発達障がい学生の学生生活支援
入濱 直美 西南学院大学学生相談室
- CS-3 うつを伴う発達障がい者への地域支援
千葉 信子 (有)多摩たんぼぼ介護サービスセンター
- CS-4 発達障害者への就労支援
松為 信雄 文京学院大学人間学部人間福祉学科

第7回うつ病診療講習会

うつ病の寛解から完治・社会復帰へ向けて－職場のケース

7月20日(土) 9:00～14:00

C会場 (北九州国際会議場 1F 11 会議室)

オーガナイザー 川崎 弘詔 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

うつ病診療における標準的な診断および治療について、5時間、少人数でのグループ形式参加型講習会で、学習する。学習形式としては、レクチャーと全体討論も実施。対象者は、うつ病の診療について、初学者から中級者としている。学習内容としては、今回は特にうつ病の寛解、完治から社会復帰までを中心とし、職場のケースを主体として取り上げることにした。講義形式と、症例検討を行い、症例検討は、グループ討議形式で行う。30名の受講者と講師+ファ

シリテーター(10～15名)が参加するため、グループ形式の討議においては、各講師、ファシリテーターとの討議の機会も得られ、個人の学習レベルに可能な限り対応する形式となっている。その後、全体討論を実施。全員参加型で、参加者各人の学習の習熟度を上げ、結果をフィードバックする。産業医更新ポイント対象講習会として認定を受けている(4単位)。

定 員：30名

受 講 料：12,000円(テキスト・受講修了証・昼食代を含む)

参加資格：医師

形 式：①少人数でのグループ形式参加型講習会 ②各分野の専門家による講演

講 師：診療教育委員会委員およびうつ病診療のエキスパート

主 催：日本うつ病学会 診療教育委員会

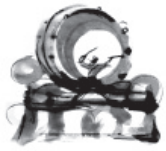
産業医の方へ

第7回うつ病診療講習会は、日本医師会認定産業医制度生涯研修会として承認されました。日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯・専門4単位を取得できます。

日本うつ病学会 診療教育委員会
委員長 川崎 弘詔
(九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野)

<プログラム>

内 容		担当/講師(所属)
イントロダクション 講習会概略説明		川崎 弘詔 (九州大学大学院医学研究院 精神病態医学分野)
講演1	うつ病診療の30年間の変化と 職場のメンタルヘルス	五十嵐 良雄 (メディカルケア虎ノ門)
症例検討①	典型的なメランコリー型うつ病	グループワーク
		症例解説：佐々木 高伸 (佐々木メンタルクリニック)
休 憩		
講 演	薬物療法の留意点について	田島 治 (杏林大学保健学部健康福祉学科 精神保健学・社会福祉学教室)
症例検討②	現代型のうつ病	グループワーク
		症例解説：橋本 恵理 (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)
コメンテータ発言(症例検討を通じて)		新開 隆弘 (産業医科大学医学部精神医学教室)
昼 食		
講演2	自己愛的ケースの扱い方	平島 奈津子 (国際医療福祉大学三田病院精神科)
講演3	職場復帰のポイント	佐野 信也 (防衛医科大学学校心理学学科目)
講習会まとめ		川崎 弘詔 (九州大学大学院医学研究院 精神病態医学分野)



第8回 学会奨励賞受賞講演

7月19日(金) 14:50～15:20

E会場 (AIMビル 3F 311+312+313)

司会 神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

高齢うつ病における発症年齢とアミロイドβタンパクの代謝異常との関係

演者① 馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
(Juntendo University Mood Disorder Project: JUMP)

妊娠中の不安・抑うつと産後の抑うつと愛着不全との関連性
－妊娠末期から産後1ヵ月までの縦断的調査－

演者② 國分 真佐代 三重大学大学院医学系研究科

児童における抑うつと社会的スキルに関する縦断的分析
－学年に応じたターゲットスキルの検討－

演者③ 永山 みお 宮崎大学大学院教育学研究科

ガイドライン説明会

7月19日(金) 15:20～15:40

E会場 (AIMビル 3F 311+312+313)

司会 石郷岡 純 東京女子医科大学医学部精神医学教室

rTMSによる気分障害の治療ガイドライン：大うつ病

演者 鬼頭 伸輔 杏林大学医学部精神神経科学教室

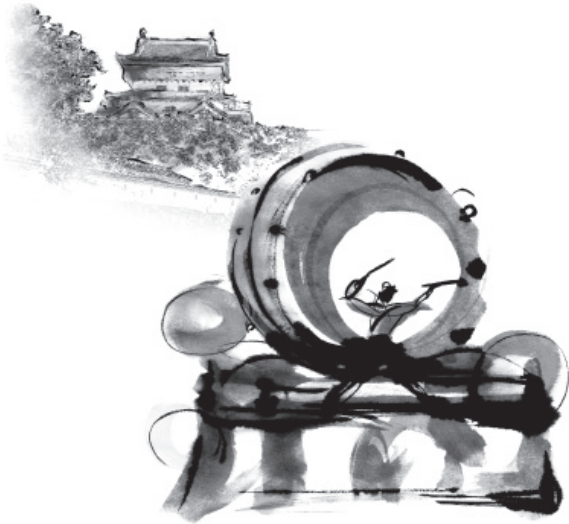
10th JSMD プログラム

モーニングセミナー1~3

ランチョンセミナー1~8

イブニングセミナー1~3

市民公開講座





モーニングセミナー 1

7月19日(金) 8:40～9:30

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

うつ病治療の作用点としての慢性不眠と過覚醒

座長	内村 直尚	久留米大学医学部神経精神医学講座
演者	三島 和夫	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 精神生理研究部
共催	MSD株式会社	

モーニングセミナー 2

7月20日(土) 8:00～8:50

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

DSM 5 – Implication of treatment and outcome in bipolar disorder

座長	岩田 仲生	藤田保健衛生大学医学部精神神経科学
演者	Mauricio Tohen	Department of Psychiatry, University of New Mexico, Albuquerque, NM, USA
共催	日本イーライリリー株式会社	

モーニングセミナー 3

7月20日(土) 8:00～8:50

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

向精神薬による意外と無視できない副作用 朝から性機能障害

座長	石郷岡 純	東京女子医科大学医学部精神医学講座
演者	稲田 健	東京女子医科大学医学部精神医学講座
共催	アッヴィ合同会社	

ランチョンセミナー 1

7月19日(金) 12:40～13:40

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

座長	山田 和男	東京女子医科大学東医療センター精神科
----	-------	--------------------

重症薬疹を見逃さないために

演者 1	塩原 哲夫	杏林大学医学部皮膚科学教室
------	-------	---------------

ラモトリギンの得失と患者説明

演者 2	兼本 浩祐	愛知医科大学精神科学講座
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社	

ランチオンセミナー2

7月19日(金) 12:40~13:40

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

明日の診療に生かすうつ病治療のエビデンス

座長	吉村 玲児	産業医科大学医学部精神医学教室
演者	岸 太郎	藤田保健衛生大学精神神経科学講座
共催	持田製薬株式会社 / 田辺三菱製薬株式会社 / 吉富薬品株式会社	

ランチオンセミナー3

7月19日(金) 12:40~13:40

D会場(AIMビル 3F D+E展示場)

DSM-5時代の双極性障害の診断と治療

座長	樋口 輝彦	国立精神・神経医療研究センター
演者	加藤 忠史	理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム
共催	協和発酵キリン株式会社	

ランチオンセミナー4

7月19日(金) 12:40~13:40

E会場(AIMビル 3F 311+312+313)

「現代型うつ病」をめぐる混乱を斬る! -うつ病のトータルマネジメントのために-

座長	矢部 博興	福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
演者	坂元 薫	東京女子医科大学病院神経精神科
共催	Meiji Seika ファルマ株式会社	

ランチオンセミナー5

7月20日(土) 12:10~13:10

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

女性とうつ

座長	中山 和彦	東京慈恵会医科大学精神医学講座
演者	加茂 登志子	東京女子医科大学附属女性生涯健康センター
共催	ファイザー株式会社	

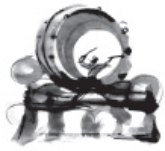
ランチオンセミナー6

7月20日(土) 12:10~13:10

B会場(北九州国際会議場 2F 国際会議室)

双極性障害の臨床を見直す - DSM-5導入に向けて -

座長	石郷岡 純	東京女子医科大学精神医学講座
演者	田中 輝明	北海道大学大学院医学研究科精神医学分野
共催	大塚製薬株式会社	



ランチオンセミナー7

7月20日(土) 12:10~13:10

D会場 (AIMビル 3F D+E 展示場)

患者さんの飲み心地を重視した抗うつ薬の選択とは

座長	張 賢徳	帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
演者	渡邊 衡一郎	杏林大学医学部精神神経科学教室
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社/大日本住友製薬株式会社	

ランチオンセミナー8

7月20日(土) 12:10~13:10

E会場 (AIMビル 3F 311+312+313)

抗うつ薬治療の現在 - SNRIの新たな地平

座長	上島 国利	国際医療福祉大学医療福祉学部
演者	白川 治	近畿大学医学部精神神経科学教室
共催	塩野義製薬株式会社/日本イーライリリー株式会社	

イブニングセミナー1

7月19日(金) 17:30~18:20

A会場 (北九州国際会議場 1F メインホール)

うつ病患者に対する「短い面接」について

座長	加藤 敏	自治医科大学精神医学教室
演者	成田 善弘	成田心理療法学研究室
共催	アステラス製薬株式会社	

イブニングセミナー2

7月19日(金) 17:30~18:20

B会場 (北九州国際会議場 2F 国際会議室)

うつ病と睡眠障害 - 不眠を軸としたうつ病診療の実際 -

座長	内山 真	日本大学医学部精神医学系
演者	内村 直尚	久留米大学医学部神経精神医学講座
共催	イーザイ株式会社	

イブニングセミナー3

7月19日(金) 17:30~18:20

D会場 (AIMビル 3F D+E 展示場)

老年期うつ病の診断と治療

座長	小山 司	北海道大学名誉教授 重仁会大谷地病院・臨床研究センター
演者	三村 将	慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
共催	旭化成ファーマ株式会社/ヤンセンファーマ株式会社	

市民公開講座

7月20日(土) 17:00～19:00

A会場(北九州国際会議場 1F メインホール)

第10回日本うつ病学会市民公開講座・第14回JCPTD市民公開講座

テーマ: うつ病と向き合う

～うつ病患者への支援と接し方～

共 催

日本うつ病学会
一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会
塩野義製薬株式会社／日本イーライリリー株式会社

後 援

一般社団法人福岡県精神科病院協会／株式会社テレビ西日本／
北九州市／九州朝日放送／九州精神科病院協会／公益社団法人福岡県医師会／
社会福祉法人北九州いのちの電話／社団法人北九州市医師会／
西日本新聞社北九州本社／福岡県精神神経科診療所協会／読売新聞西部本社／
NHK北九州放送局／RKB毎日放送(50音順)

司 会

中村 純 第10回日本うつ病学会総会会長
産業医科大学医学部精神医学教室

<プログラム>

開会挨拶: 神庭 重信 日本うつ病学会理事
九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

OL-1: 夫婦で“うつ病”と向き合い続ける日々
～強まった絆、感謝の気持ち～

萩原 流行 俳優

OL-2: 誰にでも生じるうつと病気のうつ

大森 哲郎 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野

パネルディスカッション

閉会挨拶: 中根 允文 一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会代表理事
長崎大学名誉教授／出島診療所

入 場 料

無料

定 員

550名

参加希望の方へのご案内

この市民公開講座は一般市民の方を対象しております。

第10回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもあります。一般市民の方の参加を優先いたします。

第10回日本うつ病学会総会参加者の方には恐縮ですが、入場を制限させていただきます。

7月19日(金)8:00～総合受付にて市民公開講座参加を希望する方、先着100名様に市民公開講座入場券をお配りいたします。ご希望の方は総合受付にてお受取りください。100名に達した時点で締切らせていただきますのであらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

10th JSMD プログラム

一般演題 (ポスター)





1. 薬物療法

P1-1 うつ病におけるアリピプラゾールの治療効果

西崎 真紀
まきメンタルクリニック

P1-2 パロキセチン徐放錠によるベンゾジアゼピン系抗不安薬の減量効果について

天神 雄也
成増厚生病院

P1-3 不眠症とうつ病の合併患者の受療行動

三島 和夫¹⁾、榎本 みのり^{1,2)}、草薙 宏明³⁾、北村 真吾¹⁾
1) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部、2) 睡眠総合ケアクリニック代々木、
3) 秋田大学医学部神経運動器学講座精神科学分野

P1-4 うつ病、うつ状態の入院薬物療法

—久留米大学病院における5年間の実態調査から—

堀川 直希、富田 克、千葉 比呂美、森田 翼、平方 敬子、内村 直尚
久留米大学医学部神経精神医学

P1-5 気分障害患者に対するLamotrigineの使用経験

—特に緩徐増量法と皮疹の出現について—

松永 高政、富田 克、堀川 直希、内村 直尚
久留米大学医学部神経精神医学

P1-6 SSRI／SNRIで効果不十分であった大うつ病性障害患者を対象としたアリピプラゾール補助療法の有効性の検討—部分集団の解析—

大坪 天平¹⁾、加藤 正樹²⁾、小野 浩昭³⁾、木下 利彦²⁾、上島 国利⁴⁾、ADMIRE Study Group⁵⁾
1) 東京厚生年金病院精神科・心療内科、2) 関西医科大学精神神経科学講座、3) 大塚製薬株式会社、
4) 国際医療福祉大学国際医療福祉学部、5) ADMIRE Study Group

P1-7 SSRI/SNRIで効果不十分であった大うつ病性障害患者を対象としたアリピプラゾール補助療法の有効性—MADRS及びHAM-D下位項目の検討

尾崎 紀夫¹⁾、樋口 輝彦²⁾、小野 浩昭³⁾、上島 国利⁴⁾、ADMIRE Study Group⁵⁾
1) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野、
2) 国立精神・神経医療研究センター、3) 大塚製薬株式会社、4) 国際医療福祉大学国際医療福祉学部、
5) ADMIRE Study Group

P1-8 成人のADHDに合併した遷延性抑うつに対するアトモキセチン付加療法の効果

大賀 健太郎¹⁾、坂井 禎一郎¹⁾、奥平 智之^{2,3)}、安芸 竜彦³⁾、霜山 孝子⁴⁾、芝 恵美子³⁾、
古川 陽子⁵⁾、若槻 晶子³⁾、山口 聖子³⁾、渡邊 登¹⁾
1) 駿河台日本大学大学院精神神経科、2) 日本大学医学部内科学系統合和漢医薬学分野、
3) 山口病院(川越)精神科、4) 駿河台大学心理学部、5) カリフォルニア州立大学心理学部

P1-9

**脳活動ならびに機能的・構造的連結による抗うつ薬の反応予測
- fMRIとDTIを用いて**

菊地 俊暁^{1,2)}、Jeffrey Miller²⁾、Ramin Parsey²⁾、J. John Mann²⁾
1) 杏林大学医学部精神神経科学教室、2) コロンビア大学精神科

P1-10

抗うつ薬による activation syndrome の前向き研究

原田 豪人¹⁾、井上 可奈子¹⁾、稲田 健²⁾、山田 和男¹⁾、坂元 薫²⁾、石郷岡 純²⁾
1) 東京女子医科大学東医療センター精神科、2) 東京女子医科大学病院神経精神科

P1-11

**新規うつ病患者 88 例に対する escitalopram の効果と安全性の検討
- オープン試験 -**

大下 隆司
1) 代々木の森診療所、2) 東京女子医科大学医学部精神医学教室

2. 薬物療法以外の治療法

P2-1

**精神科外来で実施された集団アクセプタンス&コミットメントセラピーの抑うつ
症状に対する効果**

横光 健吾^{1,3)}、入江 智也²⁾、河村 麻果³⁾、藤田 雅彦³⁾、坂野 雄二⁴⁾
1) 北海道医療大学大学院心理科学研究科、2) 医療法人中江病院、
3) 医療法人社団ウェルネス望洋台医院、4) 北海道医療大学心理科学部

P2-2

双極性障害患者の生活機能の改善に対する認知行動療法の効果

成瀬 麻夕¹⁾、横光 健吾¹⁾、甲田 宗良²⁾、田中 圭介³⁾、竹林 由武³⁾、杉浦 義典⁴⁾、坂野 雄二⁵⁾
1) 北海道医療大学大学院心理科学研究科、2) 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座、
3) 広島大学大学院総合科学研究科、4) 広島大学大学院総合科学研究科行動科学講座、
5) 北海道医療大学心理科学部

P2-3

復職プログラム修了者のアンケート結果

鮎川 良江、徳永 雄一郎、山下 秀一、大仁田 広恵、福島 尚子、後藤 美由紀
不知火クリニック

P2-4

心理教育が著効した双極性感情障害患者

齊藤 由佳¹⁾、小野 久江^{1,2)}、辻本 江美¹⁾、竹谷 怜子¹⁾、西川 歩美²⁾、円山 アンナ²⁾
1) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域、2) 円山医院

P2-5

**経頭蓋磁気刺激 (TMS) による治療抵抗性うつ病の治療と神経生理学的機序：
TMS-EEG 研究**

鬼頭 伸輔¹⁾、長谷川 崇¹⁾、Roberto D. Pascual-Marqui^{2,3)}、古賀 良彦¹⁾
1) 杏林大学医学部精神神経科学教室、
2) The KEY Institute for Brain-Mind Research, University Hospital of Psychiatry, Zurich, Switzerland、
3) 滋賀医科大学医学部地域精神医療学講座



P2-6

抑うつを伴う気分障害の外来通院患者におけるうつ病に関する心理教育の実態調査

工藤 周平、古郡 則雄、菅原 典夫、敦賀 光嗣、富田 哲、石岡 雅道、古郡 華子、
中神 卓、中村 和彦
弘前大学医学部附属病院神経科精神科

P2-7

電気痙攣発作刺激はイミプラミンとは異なり、ラット海馬内での pro-BDNF 及び t-PA の発現を急速に亢進させ、成熟体 BDNF の産生を導く

森信 繁¹⁾、瀬川 昌弘¹⁾、淵上 学²⁾、松本 知也¹⁾、山脇 成人¹⁾
1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学、2) イェール大学医学部分子精神医学

P2-8

うつ病に対する短期集団認知療法セミナーの実施状況

稲垣 理佐子、大橋 花菜子、伊藤 綾香、小田原 幸、端詰 勝敬、坪井 康次
東邦大学医療センター大森病院心療内科

P2-9

性格特性と運動療法のうつ病予防・治療効果の関連 —勤労者におけるウォーキングプログラムを通じた検討—

杉田 篤子、吉村 玲児、上田 展久、中村 純
産業医科大学医学部精神医学教室

P2-10

Genetic predictors of antidepressant response for major depressive disorder: a genome-wide association study

中野 和歌子^{1,2)}、Divya Mehta²⁾、Marcus Ising²⁾、Hildegard Pfister²⁾、
Darina Czamara²⁾、Florian Holsboer²⁾、Susanne Lucae²⁾、Angelika Erhardt-Lehmann²⁾、
Elisabeth B Binder²⁾
1) 産業医科大学精神医学教室、2) Max Planck Institute of Psychiatry

P2-11

再発、休職を繰り返すうつ病にリワーク支援プログラムが有用であった1例

松元 知美、青山 愛美、矢吹 亜美、杉田 篤子、中村 純
産業医科大学医学部精神医学教室

P2-12

産業医科大学病院における修正型電気けいれん療法の大うつ病エピソードに対する早期治療効果および長期予後

得津 由紀¹⁾、山田 健治¹⁾、林 健司²⁾、中野 和歌子¹⁾、新開 隆弘¹⁾、中村 純¹⁾
1) 産業医科大学医学部精神医学教室、2) 三菱重工業株式会社長崎造船所病院健康管理センター

3. 病態・症状・診断・評価

P3-1

Escitalopram 投与で血漿 BDNF は改善群では増加するが非改善群では変化しない —うつ病治療での血漿 BDNF 測定の有用性 (第3報)—

栗田 征武^{1,2,3)}、西野 敏^{1,2)}、加藤 舞子¹⁾、沼田 由紀夫¹⁾、大久保 善朗³⁾、佐藤 忠宏¹⁾
1) 社会医療法人徳会佐藤病院、2) 東北大学大学院薬学研究科細胞情報薬学分野、
3) 日本医科大学精神医学教室

P3-2

うつ病診断の確信はどのようにして得られるのか

茂木 太一、吉野 相英、野村 総一郎
防衛医科大学校病院精神科

P3-3

レビー小体型認知症と気分障害の関連

檜垣 はる香、角田 智哉、戸田 裕之、小田部 浩幸、佐野 信也、野村 総一郎
防衛医科大学校病院精神科学講座

P3-4

寛解期のうつ病性障害における神経認知機能障害とQOLの関係

清水 祐輔¹⁾、北川 信樹²⁾、三井 信幸¹⁾、藤井 泰¹⁾、豊巻 敦人¹⁾、橋本 直樹¹⁾、
賀古 勇輝¹⁾、田中 輝明¹⁾、朝倉 聡¹⁾、久住 一郎¹⁾
1) 北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野、
2) 北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科医療福祉臨床学講座

P3-5

Soft bipolarity と activation syndrome を含む抗うつ薬関連精神科的有害事象との関連

武島 稔¹⁾、岡 敬^{2,3)}
1) 厚生連高岡病院精神科、2) Jクリニック、3) 十全病院

P3-6

軽症うつ病における自他覚症状の乖離

辻井 農豊¹⁾、明石 浩幸¹⁾、三川 和歌子¹⁾、辻本 江美^{1,2)}、切目 栄司¹⁾、安達 融¹⁾、
高屋 雅彦¹⁾、小野 久江²⁾、白川 治¹⁾
1) 近畿大学医学部精神神経科学教室、
2) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域

P3-7

うつ病の再発のリスク要因としてのパーソナリティ特徴 — TCIの下位尺度SDに着目して —

浅野 正¹⁾、渡辺 茂樹²⁾、馬場 元²⁾、前嶋 仁²⁾、中野 祥行²⁾、河野 るみ子³⁾、
鈴木 利人²⁾、新井 平伊³⁾
1) 文教大学人間科学部臨床心理学科、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
3) 順天堂大学医学部精神医学教室

P3-8

CES-Dによるうつ病の判別精度：ROC分析とSSLRを用いたカットオフスコアの再検討

佐藤 寛¹⁾、井上 美沙¹⁾、高岡 しの²⁾、三田村 仰³⁾、佐藤 美幸⁴⁾
1) 関西大学社会学部、2) 関西学院大学文学研究科、3) 同志社大学心理臨床センター、
4) 京都教育大学教育学部

P3-9

児童期青年期のトラウマ体験は抑うつの脆弱性となる神経基盤を形成する

山本 哲也、土岐 茂、高村 真広、高石 佳幸、吉村 晋平、中尾 敬、岡本 泰昌、
山脇 成人
広島大学大学院医歯薬保健学研究院

P3-10

SSRI投与により周期性四肢運動の増悪を認めたとうつ病の一例

光定 博生、甫母 瑞枝、山本 直樹、西川 徹
東京医科歯科大学医学部附属病院精神科



P3-11

外来復職支援プログラムにおける作業検査の検討～一般企業データとの比較～

龍 亨、宮成 祐輔、曾ノ木 秀治、奥園 景子、田嶋 祐一郎、徳永 雄一郎
不知火病院

P3-12

東日本大震災後の北茨城市住民のうつ状態とTCIの関連について

佐藤 晋爾¹⁾、石田 一希²⁾、村木 悦子²⁾、服部 功太郎²⁾、太田 深秀²⁾、内田 和彦³⁾、
功刀 浩²⁾、朝田 隆¹⁾
1) 筑波大学医学医療系精神医学、2) 独立行政法人国立精神神経医療研究センター、
3) 筑波大学医学医療系分子腫瘍学

P3-13

本邦一般人口における季節的な抑うつ症状変動と季節性感情障害に関する研究：各季節で同一人に実施したZung SDS得点の解析

小笠原 一能^{1,2)}、太田 龍朗³⁾、尾崎 紀夫²⁾
1) ボーボット・メディカル・クリニック、2) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、
3) 名古屋第一赤十字病院心療相談センター

P3-14

光トポグラフィー検査を受けた患者の神経心理学検査と波形パターンの検討

秋山 友美、竹村 雅代、小泉 公平、宮吉 孝明、池森 紀夫、下田 健吾、木村 真人
日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

P3-15

脳卒中後うつ病における光トポグラフィー所見

木下 恵理香¹⁾、秋山 友美¹⁾、下田 健吾¹⁾、水成 隆之²⁾、木村 真人¹⁾
1) 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科

P3-16

感情障害における強迫機制の重要性について

池田 裕^{1,2)}
1) 出水病院、2) 天神心療クリニック

P3-17

BDNF遺伝子のDNAメチル化を用いた精神疾患診断バイオマーカーの開発

森信 繁^{1,2)}、淵上 学³⁾、瀬川 昌弘¹⁾、岡田 怜¹⁾、山脇 成人¹⁾、尾崎 紀夫⁴⁾
1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医学、
2) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医学ストレス克服プロジェクト、
3) Yale University School of Medicine, Laboratory of Molecular Psychiatry、
4) 名古屋大学大学院医学系研究科・医学部医学科脳神経病態制御学精神医学 / 精神生物学

P3-18

血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者における精神医学的問題

中根 秀之¹⁾、柿沼 章子²⁾、久地井 寿哉²⁾、岩野 友里³⁾、田中 純子⁴⁾、大金 美和⁵⁾
1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻リハビリテーション科学講座精神障害リハビリテーション学分野、2) 社会福祉法人はばたき福祉事業団、3) 公益財団法人エイズ予防財団、
4) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院疫学・疾病制御学、
5) 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター

P3-19

うつ病患者の躁病エピソード発現の予測因子の検討

岩波 孝穂、前嶋 仁、馬場 元、中野 祥行、里村 恵美、野本 宏、渡辺 茂樹、
鈴木 利人、新井 平伊
順天堂大学医学部精神医学教室

P3-20

うつ病患者における寛解1年後の記憶機能とBDNFとの関係

里村 恵美¹⁾、馬場 元²⁾、前嶋 仁²⁾、中野 祥行²⁾、竹林 奈緒子²⁾、滑川 友紀²⁾、
野本 宏¹⁾、鈴木 利人²⁾、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂大学医学部順天堂越谷病院

P3-21

治療抵抗性うつ病における不安障害とパーソナリティ障害のcomorbidity： 横断研究

満田 大^{1,3)}、中川 敦夫^{2,3)}、中川 ゆう子³⁾、佐渡 充洋³⁾、藤澤 大介⁴⁾、菊地 俊暁⁵⁾、
岩下 覚¹⁾、三村 將³⁾、大野 裕⁶⁾

1) 桜ヶ丘記念病院、2) 慶應義塾大学医学部クリニカルリサーチセンター、
3) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、4) 国立がん研究センター東病院精神腫瘍科、
5) 杏林大学医学部精神科、6) 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

P3-22

大うつ病患者における入院時血清テストステロンおよびコルチゾールの検討

松坂 尚¹⁾、前嶋 仁²⁾、栗田 裕文¹⁾、島野 嵩久²⁾、中野 祥行²⁾、馬場 元^{1,2)}、
鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

1) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学分野、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P3-23

大うつ病患者における入院時血清 dehydroepiandrosterone (DHEA) および DHEA-sulfate (S) の検討

栗田 裕文¹⁾、前嶋 仁²⁾、松坂 尚¹⁾、島野 嵩久²⁾、中野 祥行²⁾、馬場 元^{1,2)}、
鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

1) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学分野、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P3-24

うつ病患者におけるBDNF血中濃度と気質・性格特性について

野本 宏¹⁾、馬場 元²⁾、前嶋 仁²⁾、中野 祥行²⁾、里村 恵美¹⁾、滑川 友紀²⁾、
竹林 奈緒子²⁾、渡辺 茂樹²⁾、浅野 正³⁾、鈴木 利人²⁾、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
3) 文京大学人間科学部臨床心理学科

P3-25

奇異な妄想を伴ううつ病エピソードと考えられたが、炭酸リチウムが著効し 双極性障害と診断が確定した一例

安藤 八起¹⁾、永井 美緒¹⁾、松本 光央¹⁾、新谷 孝典¹⁾、吉野 祐太²⁾、越智 紳一郎²⁾、
谷向 知²⁾、上野 修一²⁾

1) 愛媛大学医学部附属病院精神科、2) 愛媛大学大学院医学系研究科脳とこころの医学

P3-26

双極性障害の視覚予期システム異常：視覚ミスマッチ陰性電位とP300研究

前川 敏彦^{1,2)}、勝木 聡美²⁾、鬼塚 俊明²⁾、三浦 智史²⁾、川崎 弘詔²⁾、飛松 省三¹⁾、
神庭 重信²⁾

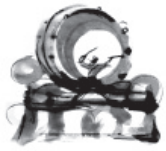
1) 九州大学大学院医学研究院臨床神経生理学、2) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

P3-27

地域高齢住民におけるうつ状態の実態：久山町研究

小原 知之¹⁾、二宮 利治²⁾、吉田 大悟³⁾、神庭 重信¹⁾

1) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学、2) 九州大学病院腎・高血圧・脳血管内科、
3) 九州大学大学院医学研究院環境医学



P3-28

認知症と双極性障害との鑑別が問題となった症例の検討

本村 啓介¹⁾、門司 晃²⁾、小原 知之¹⁾、神庭 重信¹⁾

1)九州大学病院精神科神経科、2)佐賀大学医学部精神医学講座

P3-29

軽症うつ病における自他覚症状の乖離とNIRSを用いた脳機能評価

明石 浩幸¹⁾、辻井 農亜¹⁾、三川 和歌子¹⁾、辻本 江美^{1,2)}、切目 栄司¹⁾、安達 融¹⁾、
高屋 雅彦¹⁾、小野 久江²⁾、白川 治¹⁾

1)近畿大学医学部精神神経学教室、2)関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理学領域

4. ライフサイクルとうつ病

P4-1

妊娠中の不安・抑うつと産後の抑うつと愛着不全との関連性 —妊娠末期から産後1ヵ月までの縦断的調査—

國分 真佐代¹⁾、岡野 禎治¹⁾、杉山 隆²⁾

1)三重大学大学院医学系研究科、2)東北大学病院周産母子センター

P4-2

軽度うつ状態にある維持血液透析患者の維持透析の受容プロセス

坂東 紀代美¹⁾、長谷川 雅美²⁾

1)金沢大学医学系研究科保健学専攻博士後期課程、2)金沢大学医薬保健研究域保健学系

P4-3

高齢者のうつ病からの回復—生活世界との関連における検討—

田中 浩二¹⁾、長谷川 雅美²⁾

1)金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻、2)金沢大学医薬保健研究域保健学系

P4-4

児童における抑うつと社会的スキルに関する縦断的分析 —学年に応じたターゲットスキルの検討—

永山 みお¹⁾、佐藤 正二²⁾、高橋 高人²⁾

1)宮崎大学大学院教育学研究科、2)宮崎大学教育文化学部

P4-5

高齢うつ病における発症年齢とアミロイドβタンパクの代謝異常との関係

馬場 元^{1,2)}、滑川 友紀^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、里村 恵美²⁾、竹林 奈央子^{1,2)}、
野本 宏²⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊²⁾

1)順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 (Juntendo University Mood Disorder Project: JUMP)、

2)順天堂大学医学部精神医学教室

5. 自殺予防

P5-1

うつ状態を呈し「拡大自殺」を企図した気分障害の2症例の考察 ～なぜ自己だけではなく、他者にも攻撃性が向かうのか～

福家 知則¹⁾、村杉 謙次^{1,2)}

1)小諸高原病院精神科、2)信州大学大学院医学研究科博士課程

P5-2

若年者の抑うつ状態・自殺とストレス対処方法の関係

辻本 江美、竹谷 怜子、小野 久江

関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域

P5-3

自殺企図後のうつ病者の感情および状況の分析

—ナラティブ・アプローチによる企図前・後の語りから—

長田 恭子¹⁾、長谷川 雅美²⁾

1) 金沢大学医薬保健研究域保健学系、2) 金沢医科大学看護学部

P5-4

外来における自殺防止への取り組み～多職種によるアプローチ～

三吉 勇治、大神 万里子、古賀 明日香

不知火病院

P5-5

思春期の希死念慮と自傷行為に関する臨床報告

—バウム・テストの特徴と転帰についての一考察—

奥園 景子、徳永 雄一郎

不知火病院

P5-6

うつ病の自殺防止効果から見たストレスケア病棟の現状

—日本ストレスケア病棟研究会の調査から—

徳永 雄一郎

不知火病院

6. 産業メンタルヘルス

P6-1

うつ病等による休職者の復職後の勤務継続に影響する性格的、生理学的要因

—30カ月を追跡結果

池田 英二¹⁾、塩崎 一昌²⁾、池田 東香²⁾、鈴木 道雄¹⁾、平安 良雄²⁾

1) 富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、2) 横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門

P6-2

職場復帰の判断に睡眠計測サービスを活用した1例

田口 勇次郎¹⁾、遠藤 拓郎²⁾

1) キッセイコムテック、2) スリープクリニック調布

P6-3

認知行動療法を活用したセルフケア集団教育に関する一次予防対策の効果検討

細井 有希子¹⁾、宇都宮 健輔^{1,2)}、陳 心怡³⁾、山崎 有子¹⁾

1) 株式会社東芝本社保健センター、2) 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター、

3) 産業医科大学医学部精神医学教室

P6-4

精神科看護師のための認知行動療法の基本モデルを用いたセルフアセスメント

神澤 尚利、水野 恵理子

山梨大学大学院医学工学総合研究部健康・生活支援看護学講座精神看護学領域



P6-5

気分障害による休職者を対象としたリワークプログラムの再休職予防効果の検討： 傾向スコアを用いた多施設後ろ向き研究

大木 洋子^{1,2)}、五十嵐 良雄²⁾、山内 慶太¹⁾

1) 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科医療マネジメント専修、2) メディカルケア虎ノ門

P6-6

うつ病休職者のストレス性の身体反応に身体感覚への曝露法と感情調整の修正 が奏功した事例

山本 貢司、横田 安奈、松村 英哉、森山 史子、三木 和平
三木メンタルクリニック

P6-7

うつ病休職者の復職後の困難感に影響を及ぼす認知行動的要因の検討

矢田 さゆり¹⁾、宣 聖美¹⁾、岡山 紀子¹⁾、町田 祐子²⁾、清水 馨³⁾、兼子 唯¹⁾、
巢山 晴菜¹⁾、白井 麻理³⁾、鈴木 伸一⁴⁾1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 早稲田大学人間科学部、3) 小石川メンタルクリニック、
4) 早稲田大学人間科学学術院

P6-8

復職したうつ病勤労者の2年間の復職継続率と休職に至る勤労者の特徴： 前方視的研究

堀 輝、香月 あすか、守田 義平、吉村 玲児、中村 純
産業医科大学医学部精神医学教室

P6-9

日本における刑務官の職業性ストレスと抑うつ症状の関連について

出口 裕彦¹⁾、岩崎 進一¹⁾、村松 知拡²⁾、山内 常生¹⁾、室矢 匡代¹⁾、小林 由実¹⁾、
菅近 優¹⁾、小西 章仁¹⁾、井上 幸紀¹⁾、加藤 保之³⁾

1) 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学、2) 宝塚三田病院、3) 大阪医療刑務所

P6-10

うつ病により長期休職した男性労働者の職場復帰後のプロセス

山岡 由実
神戸市看護大学健康生活看護学領域精神看護学分野

P6-11

抑うつ気分と組織資源、リカバリー経験の関連の検討

真船 浩介、井上 彰臣、廣 尚典、野崎 卓朗、田中 伸明、堀 智絵美、益田 和幸
産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学研究室

P6-12

産業医科大学病院における復職支援としての集団精神療法の取り組み

玉崎 愛美^{1,2)}、松元 知美²⁾、矢吹 亜美²⁾、杉田 篤子²⁾、中村 純²⁾

1) 日明病院、2) 産業医科大学医学部精神医学教室

7. 症例検討

P7-1

SSRI と外来森田療法で対応した歯科インプラント関連の口腔心身症

中野 良信
市立枚方市民病院歯科口腔外科

P7-2

外来看護における認知行動療法

—アサーティブに自己表現できたうつ病患者の事例—

中野 真樹子¹⁾、岡田 佳詠²⁾、山本 沙織³⁾、福宮 智子⁴⁾、上野 恭子⁵⁾、藤澤 大介⁶⁾

- 1) 多摩国分寺こころのクリニック、2) 筑波大学医学医療系、3) NTT関東病院精神神経科、
- 4) 昭和大学保健医療学部/昭和大学病院、5) 順天堂大学医療看護学部、
- 6) 国立がん研究センター東病院

P7-3

NIRSによる前頭前野機能測定を用いた治療経過の評価の有用性について

—治療的介入により波形の変化が見られた症例報告を通じて—

岩山 孝幸¹⁾、三浦 久美子¹⁾、鍋田 恭孝²⁾

- 1) 立教大学大学院現代心理学研究科臨床心理学専攻、2) 青山渋谷メディカルクリニック

P7-4

気分変動性障害にラモトリギンが有効であった一例

香月 あすか、堀 輝、安庭 愛子、中村 純

産業医科大学医学部精神医学教室

P7-5

左右放線冠梗塞後の情動障害に対する抗うつ薬治療および反応性

下田 健吾、木村 真人

日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

8. その他

P8-1

攻撃性のあるうつ病患者への看護職の役割

杉野 美幸

不知火病院

P8-2

首都圏公立総合大学における学生・教職員のメンタルヘルス支援システムの構築

河西 千秋^{1,2,3)}、土井原 千穂²⁾、金澤 直樹²⁾、岸本 智美²⁾、大山 寧寧³⁾、近藤 智津恵²⁾、
飛田 千絵²⁾

- 1) 横浜市立大学医学群健康増進科学、2) 横浜市立大学保健管理センター、
- 3) 横浜市立大学精神医学教室

P8-3

東日本大震災における支援報告と現状について

佐久間 啓¹⁾、神山 寛之^{1,2)}、徳永 雄一郎³⁾

- 1) あさかホスピタル、2) あさかストレスケアセンター、3) 不知火病院

P8-4

パニック障害におけるSSRI投与中の神経内分泌的变化について

—唾液中のMHPG、コルチゾル、IgAの検討から—

福山 裕夫^{1,2)}、岡村 尚昌³⁾、堀川 直希²⁾、松永 高政²⁾、植松 謙^{2,3)}、近間 浩史²⁾、
山田 英孝²⁾、富田 克²⁾、恵紙 英昭²⁾、内村 直尚²⁾

- 1) 久留米大学文学部社会福祉学科、2) 久留米大学医学部神経精神医学教室、
- 3) 久留米大学高次脳疾患研究センター